

# 昌平寺



本堂外観



本堂内陣

昌平寺は昭和五十六年五月二十一日に所沢市の航空公園近くに建立された若いお寺です。

寺院建立の数年前から仮本堂で活動をしていましたが、開基住職が武蔵野女子大学の教授を務める傍ら、広島県の長男で安芸門徒であった関係で浄土真宗本願寺派の拠点造りに奔走され、本山、築地別院並びに武蔵野女子大学の関係者からの強いご支持、ご協力を得て本格的な寺院建立の運びとなりました。

開基住職は、若くして勉学の道に勤しむとともに、縁あって武蔵野女子大学の同窓で所沢生まれの坊主と結婚されてからも、浄土真宗を通しての社会貢献の思いは絶ち難く、周辺からの後押しもあり寺院建立の計画が実現されました。

設立当時は、県内における浄土真宗本願寺派の活動拠点は少なく、本山が将来を展望して都市部での開教に注力し始めていた時期であったことも、当寺院の建立にとって強力な順風になっていましたが、軌道に乗るまではそれなりに大変な努力を要しました。

本堂建立にあたっては築地本願寺の建設会社と同じ松井建設㈱に依頼し、モダンな設計で、本堂内の外陣は全て椅子仕様、本願寺名古屋別院に模した建物となっています。

年間の活動としては、大きな行事は修正会、両彼岸会、報恩講等をほぼ毎月行い、更に常勤僧侶による定例法話会・毎月の茶話会及び俳句会等を通じて門徒との交流の場としています。特にお釈迦様の誕生月には、春祭り」と称してフリーマーケット・コーナーを設け近所のお子様達にも楽しんでもらえる様に餅つき大会、外れ券なしのくじ引き、外陣での落語等を企

画しています。昨年の春祭りでは、東日本大震災直後でもあり、始まりの勤行は追悼法要に切り替えるなど、その時々大きな社会的出来事にも対応できるように努力しています。

所沢駅から徒歩十五分という立地に恵まれ、隣には狭山茶を栽培している茶畑が未だに残り、長閑な一面が感じられる所です。正面から入ると、庭内の一隅に親鸞聖人と等身大の銅像が置かれ、行き交う僧侶、門徒、宗家の方々を毎日見守って戴いております。

寺院の創建三十一年目を迎え、開基住職の理念の一つである「地域社会に貢献」に資すべく職員全員で当寺院の運営に傾注していく所存でございます。



小畑開基住職



春祭り